

里山暮らしへの思いを実現

～人が生きる力がここにある～



移住者インタビュー-7



新井理子さん

埼玉県出身。大学院で農村の地域づくりを勉強。卒業後、地に足をつけながら農村に関わることのできる仕事に就きたいと同人法へ就職して4年目。

移住者インタビュー-8



境晃史さん

埼玉県出身。田んぼや畑を耕したい、唄を歌いたい、事務仕事を覚えたい、たくさんの人に会いたい、古民家改修してみたい、環境教育を学びたいとたくさんのやりたいことが1箇所に揃っている同人法を知り就職して現在1年目。

生きる力の根源

この地域の人は温かくてかこよくて、“人としての生き方”を学ばせてくれる存在。そんな方たちと関わりながら仕事ができることが何よりもありがたいです。移住して自然環境も人も好きと改めて実感しましたが、良くなかった点は一つもありません。雪は大変なのですが、四季の違いがはっきりしていて、雪の降らない土地で生まれ育った私には魅力的に感じます。厳しい自然環境だからこそ、その環境と共生して、この地域の暮らしを創り上げてきたことに価値があると思う、人が生きる力の根源があるのかなと思います。

一つ一つの積み重ね

地域資源を活用したカフェの運営や加工品の原料となる野菜の栽培などの仕事を担当しています。それ以外にもイベント企画、棚田米づくり、大工仕事など幅広い業務を経験でき、充実していると感じています。カフェを拠点に地域の魅力を感じてもらい、経済的にも地域に還元出来る仕組みになればうれしいです。一つ一つの小さな積み重ねがやがて大きな変化につながることを信じて一歩一歩進んでいきたいです。



“結い”のころ

地域の人々がユーマに溢れ、力持ちで、生き生きしていることに一番魅力を感じています。身のこなし方、話し方、段取り、すべてがお手本であり、毎日こうした先生から何かを学んでいるという充実感があります。また車が満にはまればすぐに助けにきてくれるし、たくさんの野菜や山菜をくださったり、自宅の電気が付いていなければ心配してくれます。この地は助け合いの精神“結い”のころがあります。“結い”とは近所や親戚の人たちで協力合って仕事をする事。地域全体が家族のようでとても温かいです。

移住を考えている人へ

新しい土地に移ると新しい出会い、環境、経験が待っています。今までに得られなかった発見、感動もあると同時に、今までの自分が大切にしてきた価値観がその土地に合わないこともあるでしょう。そんなときは自分を成長させるチャンスだと思ってください。自分以外のあらゆるヒト、モノ、コトを先生だと思えば学ばせてもらっています。新しい土地でたくさん「笑い、怒り、愛する、泣く」ことが、自分にとってかけがえのない財産になり、それが自分の故郷になっていくと思います。たくさん感じて、とにかく考えて、精一杯行動してみてください。

ニゲットがリニューアルしました。
情報量が増え、自治体の公務員募集情報なども一覧でご覧いただけます。

新潟くらしのポータルサイト **niiGET** もご活用ください
http://www.niiget.jp

- **ニイガタビト**
週替わりで「新潟人」にフォーカスした特集を掲載しています
- **オススメ情報**
新潟のグルメ・イベントなどのロコミ情報を週5回お届けします
- **新潟トピックス**
新潟県内の社会・経済情報を見ることができます
- **合同企業説明会スケジュール**
県内外で開催される合同企業説明会の日程が確認できます

お申し込み・お問い合わせ

新潟県県民生活課

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1
TEL025-280-5112(直通)



Uターン情報誌

「新潟生活」と「新潟Uターン情報」をセットで無料送付しています。

新潟生活

- 新潟にUターンした先輩の体験談
- 新潟の豊かな暮らしや魅力的な仕事の紹介など

新潟Uターン情報

- 新潟県内企業の紹介
- 就職活動の動向
- 就職ガイダンスのお知らせなど



送付をご希望の方は、新潟県県民生活課までお電話ください

新潟生活

目次

- 教えて先輩! ● 好きなことを仕事にする 学生とともに歩み、ともに喜ぶ
- 特集 ● 移住者が集うまち 精神的な豊かさがここにある～日本人の原点を語るゆとり～

～お子様が帰省された際に親子で将来を話し合ってみてください～

教えて先輩!
vol.25

好きなことを仕事にする

Uターンのきっかけ

長野県白馬村はスキーのメッカです。そこで1年程過ごしたのですが、とくにスポーツを通して地元の人が町おこしをしている郷土愛の姿に魅了され、新潟のスポーツに貢献したいと思うようになりました。両親のUターンしてほしいという思いも重なり8年前にUターンしました。

仕事の内容

新潟の求人情報誌でスポーツに関する仕事を探していたところ、現職を見つけ就職してから7年が経ちます。自分の好きな仕事が出来ていることに感謝しています。自分



られる場ですし、ワクワクした感覚を常に持ち続けて仕事できています。こうした仕事を続けられているのは家族の理解と協力が大きいですね。ただ好きなことゆえに仕事に行き詰まった時の壁は大きいものですが、周囲の支えと励ましで乗り越えてきました。

若い人へのメッセージ

夢を持つことは大切です。ただ、夢という遠い未来のことに感じるかもしれませんので、小さな目標を持つとよいかもしれません。私の夢の一つにトライアスロンのハワイ大会出場があります。そのためのステップとし

て、1年後、2年後の目標を設定し、なりたい自分になれるよう少しずつ前進しています。目標をもつことで夢に近づいているという自信が持てると思います。



木村智恵子さん (30歳)
スポーツインストラクター

新潟市東区出身。県内の短大を卒業後、食品系の会社に就職。スキーに関わる仕事に就きたいと一念発起し、長野県白馬村で1年程を過ごす。そこで地元でスポーツに携わる仕事をしたいと決意しUターン。現在はフィットネスクラブでインストラクターとして勤務。オフの時間はトライアスロンのトレーニングに励んでいる。



教えて先輩!
vol.26

学生とともに歩み、ともに喜ぶ

Uターンのきっかけ

学生時代に警察官を志していましたが、残念ながら試験に落ちてしまいました。翌年再挑戦しようか考えていた折、母親が携わっている福祉系の仕事に興味を沸き、上越情報ビジネス専門学校に入学することが決まりました。学生時代に都会で暮らして、感覚的に「ここにずっと暮らすのは無理だろうな」と感じたことと、住み慣れた土地で暮らすことに魅力を感じていたため、入学を機に上越に根を張り生活することになりました。

仕事の内容

就職と進学の見込みという仕事をしています。新入生向けの広報では、いかに伝わるメッセージとなるかを



考えたり、説明会の準備、調整など表面には出てこない細やかな仕事もありますが、その分、説明会に参加した学生を新入生として迎えるときはとてもうれしいですね。一方、就職課の仕事は、学生の就職の後押しなので、学生の就職が決まったときの喜びは非常に大きいものがあります。学生の悩みを聞き、励まし、希望に沿った就職となるよう学生と一緒に歩んでいます。

若い人へのメッセージ

私は神奈川県に在籍していたのですが、新潟県の求人情報探しに苦労し



ました。就職課への相談はもちろんですが、就活サイトやハローワークなどを活用して、学外で積極的に情報収集を行うことが大切だと思います。また、自分のイメージや先入観で仕事を決めつけず、色んな業種をよく調べて広い視野を持って就活に励んでほしいと思います。



浅岡哲也さん (29歳)
上越情報ビジネス専門学校 広報課・就職課

妙高市出身。神奈川県内の大学を卒業後、上越情報ビジネス専門学校のホームヘルパー養成学科に進学。卒業後、同校の講師となる。学科の改編に伴い、現在は広報課・就職課で社会に巣立つ生徒たちを応援している。



移住者が集うまち

精神的な豊かさがここにある ～日本人の原点を意識するゆとり～

観光だけではわからないその地域の「暮らし」「風土」「文化」「温もり」に魅了され、移住された方々が“集うまち”があります。「一人移住するとまた一人……」と地域の受け入れもうまく進み始め、次々に移住者が移住者を呼び寄せることが多いようです。今回、新潟市西蒲区越前浜、十日町市池谷集落、上越市桑取谷の3地域に移住されてきた方々に地域の魅力をインタビューしました。あなたもオーダーメイドの新潟暮らしを考えてみませんか。

新潟市西蒲区
越前浜

アーティストも移住する浜辺の集落

～広さにゆとりある住環境とロケーションが決め手～

移住者インタビュー1・2



星名康弘さん 十日町市出身。新潟大学卒業後、新潟市内の建設コンサルティング会社に就職。2004年独立を機に越前浜に移住。植物を染料とした染め工房「浜五」で染めものを制作。

星名泉さん 村上市出身。高校は愛知、大学は東京で過ごす。東京ガラス研究所を経て日本とオーストラリアでガラス作品の制作を続ける。2006年によりよい制作環境を求めて越前浜に移住。izumi glass studioのガラス作家。越前浜で出会ったお二人は2007年に結婚。現在、築100年ほどの2つの民家を借りて住居と工房として使用。

充実した制作環境と日々の暮らしを求めて

独立を機に住まいと事務所と工房の3つを兼ねた大きな建物を探していた、たどり着いたのが越前浜でした。越前浜は250世帯800人くらいの集落です。とくに積極的に移住者受け入れをPRしている地域ではありませんが、自分たちが移住してから数年の間に、知っているだけでも20人くらいの方がこちらに移住してきました。20～60代の音楽、工芸など文化芸術関係を仕事や趣味にされている方が多く、自分の制作環境を整えやすい古民家を借りることが多いようです。海・山・砂丘と自然環境が豊かであるとともに、昔ながらの集落景観やご近所付き合いが続いているところも特徴です。

どう暮らしたいのかをイメージする

越前浜はこれだけのゆったりした環境でありながら、新潟駅に車で40分、燕三条駅にも40分という好立地です。私たちのお客様は新潟市内、県央地域のどちらにもいらっしゃいますし、関東方面からのお客様も時折ありますので、その点で立地にバランスがよく不便を感じていません。私たちは平日はここで働き、暮らし、そして休みのときには買い物も兼ねて市街地へ出かけるというスタイルです。こちらもいいバランスで両方の良さを満喫できていますが、賑わっている場所に住み、週末はゆったりした場所へ出かけるスタイルでもいいと思います。

将来を考えると収入や就職ありきになりがちですが、どのように暮らしたいか一度考えてみるのもいいと思います。ここは自営の仕事はもちろんのこと、新潟市内と県央地域の中心地どちらにも通勤できる範囲です。どういう暮らしをしたいかのイメージがこの場所に合うようでしたら、それを移住先の条件として大切にできます。暮らし方を考えてから、それに合った仕事、収入を考えてもいいんじゃないかなと思います。ここには精神的な豊かさゆとりある自由な空間がたっぷりある場所です。

移住者インタビュー3



齋藤優介さん 燕市出身。燕市産業史料館に勤務。新聞で越前浜の特集記事を見て、その日のうちに訪問。浜辺暮らしに魅了され突如移住を決意。1年ほど越前浜集落に通い住民の方々と同様になり、当時の区長さんから今住んでいる家の大家さんを紹介され移住。

心地良い暮らしの要素が凝縮されている

歩いて海に行けること、近くに温泉があること、面白い仲間がいること、広くて家賃が安い家、最高に美しい夕日と星空、そして波の音と、心地良い暮らしの要素が凝縮されています。約300坪の土地に築25年の平屋の一戸建てを借りて、週末にはホームパーティをすることもあります。インターネットが繋がらなかつたり、公共交通機関がほとんどなく利便性を追求した暮らしとはかけ離れているかもしれませんが、心の豊かさがぎゅぎゅと詰まった地域です。大学時代、社会人と新潟から離れて県外で暮らしていましたが、現在、越前浜に住んだことで、改めて新潟の魅力にはまっています。

十日町市
池谷集落

本質的な集落の引継

～自立できるコミュニティを目指して～

移住者インタビュー4



多田朋孔さん

大阪府出身。京都の大学を卒業後、コンサルティング会社に就職。仕事を通じてNPO団体と出会い、ボランティアに関わるようになる。中でも十日町市池谷集落に惚れ込み、移住を決意。2010年2月から家族3人で移住。十日町市地域おこし協力隊に委嘱され2年目。

社会の仕組みを変えたい

仕事を通じて知り合ったNPO団体のイベントで月に1回程度、この集落に足を運ぶようになりました。ちょうど2009年春、前年のリーマンショック直後のことで、資本主義システムの限界を感じていた時期でした。社会の仕組みを変えるために将来的には政治家を目指すか、あるいは社会の仕組みに翻弄されないように、自給自足的な暮らしを始めたいと思っていたところ、十日町市の地域おこし協力隊の話聞き、何の迷いもなく応募しました。妻は反対しましたが、秋休みを利用して10日ほどジョイントステイをした結果、家族からも同意が得られ翌春に移住しました。



移住者インタビュー5

小佐田美佳さん (写真左)

東京都出身。学生時代から池谷集落のイベントに参加。求人広告会社に就職後、徐々にイベントに参加し、成長した池谷集落に将来性を感じ、会社を退職。2011年3月から移住。現在、十日町市地域おこし実行委員会スタッフとしてイベント、広報を担当。

移住者インタビュー6

坂下可奈子さん (写真右)

香川県出身。東京での学生時代から池谷集落のイベントに参加。就職内定も得ており就職か移住が悩んだ末、心の解放と楽しさから移住を決意し2011年4月に移住。その判断は間違っていないと確信するほど充実した日々を過ごす。

必要とされている実感

学生時代からイベントのボランティアとしてこの地域と関わってきました。就職してから、久しぶりに池谷集落のイベントに参加し、自分でなくても代わりのきく今の仕事よりも、この集落の地域おこしをしたいと考えようになりました。集落の人に「小佐田さんに来てもらいたい」と言ってもらえたこともうれしくて、移住を決意しました。現在は実行委員会スタッフとしてイベント企画、広報を担っています。東京で働いているときよりも生きている意味や自分が必要とされていることを強く感じます。自分がやっていることが地域に貢献できていると思う喜びも大きいですね。移住を考えているのであれば、その土地を好きになることと、地元の人に必要とされるのが大切だと思います。

受け身でなく自分で設計する

学生時代、イベントで池谷集落に通ううちに、都心では出会わなかった地域の方々との人間性、生き方、哲学に魅了されました。エゴ、嘘、損得と関係なく真っ直ぐに人と向き合う。それらは農的な生活から得られているような気がして、自分自身もそうなりたくて企業内定をお断りして移住を決意。農業をやりながら十日町市地域おこし実行委員会のスタッフとしてもボランティアの受け入れなどをしています。日々の仕事を受け身でなく、全て自分で設計してやっているからこそやりがいを感じています。国際紛争がなくなればいいのにと、世界平和のためには何ができるとか学生時代には考えて自分ができることを模索していましたが、今は目の前の人を幸せにしたり、そこにあるものを守ったり大切にしたいと考えています。

意外と暮らしやすい

新潟暮らしを楽しむ3つのポイント

① 食費は半自給自足。直売所の買い物で節約

米はもちろん、野菜や果樹の栽培も盛んなので、農産物を半ば自給自足している移住者もいます。直売所では新鮮で安い農産品を購入できます。中にはご近所からおすそ分けをいただくという人もいます。

にいがた直売所マップ参考URL
<http://www.pref.niigata.lg.jp/syokuhin/chokubaibook.html>

② 庭付き一戸建ても手が届く、住居費の安さ

購入するにしても借りるにしても、住居は首都圏より安値。ただ物件が少ない場合もあるので、早めに動いた方がよいようです。市町村の空き家バンクで探す方法もあります。

市町村の空き家バンク等参考URL
<http://www.niiget.jp/akiya>

③ 車を上手に使う暮らしで交通費を削減

移動手段は車が主なので、ガソリン代がかさみがち。まとめ買いなどで、車の使用頻度を抑えたいものです。なお除雪体制が整っている地域が多く、冬でも移動は車で可能な場合が多いです。

にいがた暮らしガイドブック「にいがたで、はじめる。」(新潟県発行)より